

私たち今は、自分にとつて向井孝とは何であるのか、自分にとつて自達とは何であるのかをもうまことに、向井と「自連」にとつて自分は「何であつたか」を向うことは、必ずしも逆立ちした論理ではない。否、この内にかけ板キには、「自連」の主体的解体などあり得ないからだ。さらに自らの内にある向井とその思想性の発露を自ら掲発しないがぎく「内なる自連」の解体はありえない。自連の解体とは高橋和己の云うごくく「わが解体」であるのだ。

最初は、個別の、いわゆる「向井孝」でじた。しかしその向井を余りにも永く、余りにもいろんな場所に余りにも絶対的に、私と私たち自運社員の前に存在することを許してきただの、一回の「向井孝」を際限なく虚像化したものによって、自運と自運の運動はこれまでに自動きのできなじほど自らを自導してきたのではないだろうか。向井の存在をいかに大きく意識しているか、あるいは自分の発想であるかのように思っているものが多いから向井の影響についてにあるかを知っているのは、そこまでいるものでないかに向井の影響の範囲やB'アジトの常連を自称する人たちにとっておらぬであろう。「自由運ぶはまやしく向井孝の想い付きによって創刊され、にもかかわらず「運動」のもつ自己運動性ゆえに情況と共和し、成長して今日に至ったわけであるが、今その主張的でなければならぬ解体の作業においてすら、向井の発想とその圧倒的インシアチブによつて押からしもうとしている。

向井吉之を批判しきらぬいかぎり、自連の総括は
永遠に終らない

尾閭
弘

のは、そこに集つてていた人々の多くが自運を読んでいる人たちの多くが明らかにある種の特殊集団を形成していることにによる異和感である。それが「自運」に関する人たちおよび自運によるコミュニケーションを皮層的なものにし、上すべりのものにしている。なお悪いことに焦臭として求心的性向にあることを皮層によるものにして、それは向井より「自運」なりをによつて自ら隔離感と疎外感を深めている。求心的性向の中心に向井がいるといつても、それは向井にだけ理由があるのではない。向井をそのようにしている回りがあるからである。向井より「自運」の解説が提起されたのも、まさにそのことを自身感じていたからではないだろうか。「自運」の提起でなければなかつてし、どんなことがあつても、私たち自身の仕事でなければならなかつた。

個人的付記

后
井

「自運」40号のへそりを、向井孝へのカウンターパンチのオーラとして続けたいと思います。たゞに戦術論・情説論にとどまらずに、自運論・反向井孝論を展開したいと思ひます。多くの人の参加と協力を期待します。(あくびを、大阪市旭区鶴鳴台・自運大坂尾崎弘に寄連録下さい)

中華書局影印

LiberaFederacio
W.
yo 40.4
1972
10.20
姫路市亀山354
自由連合社
振替: 大阪 1264

④「ここはどきやんじくひのくわん。
ん。自運の下条はどうぐの皆
に野虫死んだ。そして今下
条は別の形で再生しつつある。
自運に觸れれば事を幸せだと
思う。アバヨ、タツシヤヂナ。

解体作業後記

よびかけた責任として、一応
しめくくりの意味で、個人的
な感想をしるしておきます。

向
井
序

- (1) 10月20日で、解体作業を行いました。

(2) ぼくにとつて解体作業とは、自車一戸から田のモラまでの一いだの紙上で、表現してきたことと一緒に、思想としての

① 自由連合 ② 非暴力直接行動
③ 共同体、に集約される諸問題を、作業としてアアジト街のなかでへ可視化しへ日常化へすること。

すなはち、紙上の抽象性を、作業に参加した個々の人々と共に、そのからだでの経験として記憶するひとへ形見分けしして受けとめることでした。

まことに形見方の形見が持

Liberia Federación

この間、ぼくは新しいよい友人を知り、かつ獲たことを忘れられぬことです。

④ この~~伝~~圖のなかで、ぼくには、一読者とだんだんずれが大きくなつて、いく自連のすがたがはつきりと見えてきました。それゆえに、へつぶさねばならぬ自連の作り手(編集社員)として存在している自分がたのも!

けるやえ不可能ともいうイキ、課題であり、その卓からすれば多少にしろ問題に挑みえたことだけでも上出来かもしれません。

そしてこの努力のなかから、たとえば、いままで何度か起きたとして起しえなかつた、若干の論議が、中條平蔵にモセよ・はじめてあらわれたこと。

また、へつぶれるレという筋易と状況を、自分の意志でへつぶすレという想定でどうぞなあしーへつぶすレということの具体的な一前例のない試みに転化して、直ち

自連は40-4で…(伴)、姫
路にある自由連合社のカンバ
ンは自然消滅ということになります

× × ×

大阪のニアジトは條件のよい
ところなので当分、有志が維
持する筈になっています。

Bアジト(サルートン)は、10
月15日用意、月末移転です。

社
止

う、とは思う。だが正直などころ
もうこれ以上自連凹を作りにく
はない。解体作業も総括もナッテ
ナイ。けれども、杉原の手には余
る。逃げ口上と取られてもいい。
▼勿論、ぼく自身、ケリはついて
いない。だから個人的には、考え
もするし書きもするだろう。向井
思想の批判、というより向井に犯
されきつている自分をぶちこわす
こともしなければならない。だが
自連は、ぼくにとっての自連は、
もはや噴死してしまった。死んだ
者は生き還らない。
▼ぼくがA
アジトを初めて訪れてから、今日

どうしても書にたぐて並に圓
いたのだが、結局「」だけは書かれて
くつちや。 ▶尾関さんへその5
を出すといふのは、^ヘ新自連^ヘ尾
関自連^ヘを作るといふのではなく、
へつぶす^ヘと言ひながらつぶせてい
ない、少くともコレコレをしなくて
はつぶしたことにならない、と
いうことらしい。確かにそうだろ

へんじゆうしつ

浅野、原田、長沢、伊藤、山口、新保、水島、山本、中島^和、田甫、吉村、榎井、松崎、沢田、沢口、北見力^二島、杉原、茨木、阿部、寺田、原、布施、高橋、上田、山口^和、篠田、若松、飯河、杉本、林、竹中、布川、山口^生、後藤、米沢、三宅、芳村、井上、本多、他數名（書き渡れあつたら、コメントナサイ）。

(5) サイズた、この作業にかけつけた方々の名を記録しておきます。

久保、村木、生己、柴野、磯田、吉川、辰井、下条、高井、石川、山一、向井、小村、高瀬、志摩、滝沢、左近丸、北村、あはつち、石崎、山田、眞知子、宮園、岡本、中島A、鈴木

自由会計は40号の4を以て…
しますので、それに伴い前納紙
代レはお申出でにより、御返金申
にげるか、次のように処理させて
頂きたくおねがい申上げます。
なお、まことに厚顔至極ながら、
お申出でないときも、御好意のカ
ンパとして、現在までの赤字の補
填にまわさせていただきます。

姫路市かめ山34・清算人:向井孝

①、ご返金の代りに、自由会合由モ
ヘフモ以降)内容は、自走論文集統一
でなく(前記モヘ末尾に掲載モシ)の御指
定モ、を相当分共商して相殺。

又は、右記出版物を送附相殺

② 送付担当方負担、但清算額に小額
端数あるときは送料として切捨させて
下さい。

で七三〇日目。その間に、ぼくは多くのものを得た。このあと何を始めるか、ぼくにとつての自運のネウチは、それによって決まるのかも知れない。死セル自運は、生ケル杉原を走らせるかどうか、吉と出るか凶と出るか。
▼解体作業にかかるから、自運は向井自運や、と思うようになってきた。一時は、自分なりにしつかりつかまえに気がしていにのに、手伝いでしかなかつたというのが本当のところらしい。いくら編集長兼小使しであっても、ぼくには自運をつぶせるはずはないのだ。
▼「つぶさなければ60号まででも続く自運」は、しかしせいぜいそのあたりまでつぶれるだろう。過去関ってき、人たちの離れ方へ関りの変え方を見ていると、そう思う。疎遠になつていく場合も、何ら問題とされないことは、関係や連合がお題になっている。さらに、自運がアジ・ミキれることがなく、尾関さんが弥栄へ、下条さんが釜ヶ崎へという動きが、逆に障壁となつてしまつたことは、
▲関係と連合、そのものの……